

【FIBA パトリック・バウマン事務総長からのレター(和訳)】

2018年8月22日

会長
事務総長
友人の皆様

ジャカルタにおけるアジア競技大会で発生した日本代表チームの案件の詳細を伺っております。

皆様と同様に、我々のスポーツおよび JBA に暗雲を漂わせた事件を深く悔やんでいます。選手の行動は許されるものではありませんが、皆様の迅速および冷静な対応は非常にプロフェッショナルであり、力強いものであったと信じています。リーダーシップの間われるこのような困難な時に、三屋会長は非常に厳しい状況に置かれていたにもかかわらず、記者会見にしっかりと対応してくださいました。

JBA にとって、これから4名の選手について決定を下す際には、今後の良い手本となることが重要です。もし、その手順に関して支援が必要な場合、我々の法務チームはアドバイスにより皆様の支援する準備は整っています。しかし、彼らの非難されるべき不利益を与えた行動に対しては、皆様の経験、不屈の精神、英知によって、JBA は正しいバランスの制裁を見出すことと確信しています。

FIBA は皆様の味方で、強く、毅然とした対応を支援します。同時に、メディアおよびステークホルダーによるお二方へのプレッシャーも理解しています。それでもなお、我々は JBA 執行部に対する否定的な意見等を支持することはなく、それらは JBA および東京 2020 への道筋に大きな損害を与えます。未熟な4名の選手の愚行は、お二方（JBA）を表象することでもなく、日本バスケットボール界のすべてでもなく、JBA 執行部に対する否定的な意見は決して正当化されるものではありません。

話は変わりますが、適切と思われましたら、インドネシアバスケットボール協会会長、セントラルボードの仲間であり、アジア競技大会組織委員会会長および 2023 FIBA バスケットボールワールドカップの仲間である Erick Thohir 氏に短い個人的なお詫びをお送りすることをご検討ください。もし、書面を送付する場合、我々と FIBA Asia にも写しをお送りください。

我々は皆様の成功を願っています。必要な場合は遠慮なくご連絡ください。

パトリック・バウマン
事務総長

写) オラシオ・ムラトーレ会長
インゴ・ヴァイス財務長
アンドレ・ザグクリス 法務部長